

会議録

1 会議名 木更津市立公民館運営審議会第2回定例会

2 開催日時 令和7年10月8日(金) 14時00分~16時35分

3 開催場所 木更津市立中央公民館 B館3階多目的ホール

4 出席者氏名

【公民館運営審議会委員】 16名

小出 京子	小山 百合子	石田 美穂子	石井 ちえ	市川 一成
実形 昭夫	平野 進	山口 宗治	室前 恵子	秋元 豊
原田 洋子	梅澤 千秋	小倉 博史	澤邊 賢司	鈴木 和幸
山下 紀世美				

【公民館長】 14名

山下 理 (中央公民館)	出口 雅志 (東清公民館)
唐鎌 勲 (富来田・富岡公民館)	影山 圭子 (清見台公民館)
相場 明彦 (岩根公民館)	竹内 康博 (畠沢公民館)
山村 由美子 (鎌足公民館)	石井 和成 (岩根西公民館)
鈴木 加津也 (中郷公民館)	江尻 益男 (西清川公民館)
根本 修身 (文京公民館)	佐藤 雅之 (波岡公民館)
藤崎 仁 (八幡台公民館)	森竹 慎子 (桜井公民館)

【金田出張所】 1名

熊澤 義文 (金田出張所長)

【金田地域交流センター】 1名

能城 明大 (金田地域交流センター所長)

【事務局職員】 4名

小川 泰 (中央公民館事業係長)
坂井 則夫 (中央公民館主任主事)
牧野 淳史 (中央公民館事務員)
宮城 三津子 (中央公民館会計年度任用職員)

5 報告事項

公民館の地域交流センターへの移行に関する市民活動支援課・生涯学習課より現状報告

6 議題及び公開又は非公開の別 公開

議案第1号 令和7年度公民館文化祭(まつり)の実施及び視察研修の実施について

7 諮問事項

「地域づくりや地域交流の推進を図りながら、充実した生涯学習事業や社会教育事業を実施する効果的な方法について」

8 連絡事項

- (1) 各種選出委員からの経過報告について
- (2) 各種研修会について
- (3) 市公連各委員会からの報告について
- (4) その他

9 傍聴人の数 3人

【資料】

令和7年度木更津市立公民館運営審議会第2回定例会次第
公民館の地域交流センターの移行について
第7回金田地区文化祭開催について
視察研修の開催について
君津地方公民館運営審議会・君津地方公民館連絡協議会合同研修会の開催について
(合同研修会参考資料) 事例8 地域課題の解決に取り組む沖縄県那覇市若狭公民館の事例
オーガニックシティインダストリーフォーラム in 木更津
公民館まつり事業計画書 (冊子:事前配布)

※事務局より出席者数が2分の1以上に達した(委員定数20名に対し、16名出席)ので
公民館運営審議会運営規則第6条の規定により、会議が成立したこと、本会議が公開制
であることを報告。

会議概要 以下のとおり

【鈴木委員長】皆さん、こんにちは。2回目の定例会ということで、ご出席いただきまして、ありがとうございます。委員長になって、2回目の司会進行ということで、不慣れではありますけどもよろしくお願いします。本日は、公民館の文化祭の関係、文化祭視察研修の件。あと、公民館の運営審議委員会の役割。として館長の諮問に応じてですね。公民館、4月から地域交流センターに移行するということで、皆様からご意見を、1人3分程度ということですが、ご意見をいただければと思います。それに合わせて、生涯学習課及びこれから移管される市民活動支援課の方からも、職員の方に来ていただいております。その説明等を受けてこれから、公民館のあり方というよりも、新しい施設のあり方というものを、みなさんから忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

【事務局】 今回マイクシステムを利用してしておりますので、発言される方につきましては、お手元の目の前にありますマイクの方のボタンを押して発言をお願いします。また、発言が終わりましたらマイクのスイッチを押していただきますようお願いします。また先ほど鈴木委員長からご案内がありました通り、議事につきましては、公民館文化祭の件、視察研修の件、それから公民館運営審議会の役割としまして、館長の諮問に応じまして、公民館における各種の事業事業の企画実施につき調査審議するものとするという役割がございます。6月定例市議会を経まして、令和8年4月1日から市内の各公民館が地域交流センターに移行することが決まりました。これまで木更津市の公民館は50年以上、地域住民とともに様々な学び、地域の活動を行ってきたところですが、これまで公民館が培ってきたことを尊重しながら、さらなる地域づくりを進めていくために、より充実した事業のあり方について、ご意見いただきたく、今回、公民館長から公民運営審議会委員の皆様に、地域づくりや地域交流の推進を図りながら、充実した生涯学習事業や、社会教育事業を実施する効果的な方法についてというテーマについて諮問をさせていただく予定でございます。

その前段としまして、公民館が地域交流センターに移行するにあたっての現在の進捗状況について、委員の皆様に情報として知っていただくために、本日は、市民活動支援課と生涯学習課の方においでいただいております。それでは、市民活動支援課、生涯学習課より、それぞれ報告をお願いいたします。

○説明出席者 榎本市民協働部次長兼市民活動支援課長・島村係長・内堀主査
水越教育部次長兼文化課長・鈴木生涯学習課長・堀田係長

市民活動支援課説明

【事務局】 ありがとうございました。続きまして、生涯学習課よりお願いいたします。

生涯学習課説明

【事務局】 ただいまの説明内容につきまして、ご質問ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

【秋元委員】 八幡台の秋元と申します。今、理路整然と説明いただきましたが、運営体制のイメージのところですけども、教育委員会は、市民活動支援課に対して指導助言をすると、これは綺麗な言葉ですけれども指導できるのですか。組織が違いますし、はっきり言いまして市民協働部になるですから、そこの命令系統が全く違う。それに対して指導とい

う強い形でできるのか。組織が分かれますと当時に関わっていた職員がいる間は残ってそのまま行く。ところが異動でいなくなってくると、新たな職員は、市民活動支援課で動いていても、なぜ教育委員会から指導されなきやいけないのか、という話になる。これは組織の常識ですから。そういう意味では、私は当面はうまくいくと判断しています。ただ、3年4年経て、職員が変わったときどうなるのか、その担保を明確にしていただかないと、やはりこれは問題だというように思います。その辺をはっきりして、いただければ良いと思ってます。

【鈴木課長】 今回、6月の市議会定例会で可決されましたその条例の第3条に業務というものがあり交流センターの業務の中に「生涯学習に関すること」ということできちんと位置付けております。そちらもありますし、教育委員会の方からは、補助執行という形でセンターの職員に対して先ほど申し上げましたように、市民協働部の職員にはなりますけれども、その部分に対しては補助執行という形できちんと整えて整理をしていく所存ですので、3年足らずで終わらずにずっと継続できるよう、体制はきちんと整えて参ります。以上です。

【秋元委員】 今言う、条例で明確になっているというなら、その条例を前面に出していただきたい。条例の一部で小さくのせるのではなくて、新たに来た職員もわかるよう明確に載せていただきたい。

【鈴木課長】 ご意見ありがとうございます。条例に基づいて事務を遂行するのが職員の役目ですので、そちらの方は毎年、研修等行いながらきちんと継続できるように体制を整えて参ります。

【秋元委員】 今明確に言っていただいたので、ここにいる館長さんも、まだしばらくは、辞めないでいらっしゃるし、公民館運営審議委員の方も、これでやめても市民として残っているので、その基本的な考え方を理解していただいて、おかしいと思えば皆さん声を出していくだければ幸いだと思います。私は今までの公民館のあり方の、上記事業、あと地域の活性化に非常に寄与してきたということで、その分、拠点がなくなるのではと非常に心配しています。基本的に職員の考え方、課の考え方によって全く違うものになりますので、その辺はしっかりとやっていただきたいと思います。

【平野委員】 中郷の平野といいます。市民活動支援課の資料の4番目の移行スケジュールについてお尋ねいたします。6月ですね。教育民生常任委員会ですか、その中で、条例が決まりま

したら、各公民館の各団体、まち協とか社会教育委員会とかに説明があるという回答がされていましたけども、そのスケジュールはいつ頃になるのでしょうか。

【島村係長】 質問ありがとうございます。こちらのスケジュールにありますとおり、11月上旬頃に、「利用の手引き」というものが、完成するということになります。これができましたら、各公民館の方で、そういう運営協議会さんですとかサークル連絡協議会等のところに説明の方をしていければと思っております。以上でございます。

【事務局】 他にはないようでしたら、ここで市民活動支援課および生涯学習課は退席となります。

【事務局】 それでは議事に移ります。議事進行につきましては鈴木委員長にお願いいたします。

【鈴木議長】 議長を務めていきますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。議事に移る前にですが、本日は、能城金田地域交流センター所長にお越しいただいておりますので、紹介をさせていただいております。

【能城所長】 金田地域交流センター所長の能城です。よろしくお願ひいたします。

【鈴木議長】 それでは、これから審議に入ります。慎重審議についてご協力よろしくお願ひいたします。まず、議案第1号、令和7年度公民館文化祭の実施及び、視察研修の実施についてです。事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは文化祭の概要につきましては、事前に委員さんに資料お渡ししておりますので、はじめに山下中央公民館長より一括して説明をさせていただきます。その後、質疑応答の時間とさせていただきます。

公民館文化祭の概要説明

【鈴木議長】 ただいま事務局より説明をいただきました。実は今日第2回目ですけども、昨年本委員になられていない方はご存じないかもわからないですが、今までですと、この事業計画書を各公民館長から説明をしていただいて、それだけで1時間ぐらい時間を使ってました。あらかじめ、皆さん目を通していたいていると思うのですが、見ればわかるということで、余分な時間使うなというようなことで、本日この後、みなさんからご意見をいただく時間に充てたいという経緯がございます。この事業計画書、等について、質疑がある方は挙手をお願いいたします。

【秋元委員】 1点だけ教えていただきたいです。金田交流センターが、文化祭が1日だけなのですね。この後、金田地域交流センターの方から説明を受けていますかね。それでもう各公民館については、皆さん目を通してくださいますことだと思いますが、それぞれ、所属している公民館以外はあまり興味がないというと大変失礼になりますが、参考になるものがあれば、また取り上げていただければと思います。

【鈴木議長】 それでは質疑なしということで、この後、金田地域交流センターからの文化祭の説明をお願いいたします。

【能城所長】 金田地域交流センター文化祭 概要説明

【鈴木議長】 ただいまの説明について、ご意見・ご質問のある方はよろしくお願ひします。

【秋元委員】 金田の方では展示をされる団体が多いと思うのですが、この方たちの展示は1日でOKなのでしょうか。八幡台では文化祭は3日間やることになっています。今回も、展示部門について1日にしたいという提案をしたけれど、「せっかく自分たちが作ったものを2日展示したい」ということで、八幡台は延べ3日になっています。先ほど言いましたように、金田は住民の方は、1日でいいということで収まっているのかお聞きしたい。

【能城所長】 展示は1日で大丈夫かというご質問ですけれども、出展者が本会員だけではないですが、例年、1日のみで大丈夫という形でご了承をいただいております。ただ、書道のサークルについては、施設の利用申請をいただいて、文化祭とは違った形になりますが、2週間ほど延長展示の予定となっております。

【秋元委員】 今後、金田さんは周りの住民が増えてきていますから、当然サークルさんが作られているのは多くなると思うのですけども、そうすると、もっと、施設自体が狭くなってくる可能性があります、その場合は、文化祭の日にちを増やすことも視野に入れて考えていますか。

【能城所長】 はい、今回の参加団体数も40団体ということで例年より増えております。発表に関してもけっこう時間がかつかつとなっておりますので、こちらに関しては土曜日、月曜日、或いは2日ないし3日間の開催を視野に入れながら、今後、開催を検討ていきたいと思っています。

【鈴木議長】 他にないようでしたら、視察研修の実施について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 文化祭視察研修について説明

【鈴木議長】 視察研修についてご意見ご質問がないようでしたら、議案第1号について審議を終了させていただきます。

文化祭につきましては地域を挙げての一大イベントでございますので、企画運営に当たりいろいろ大変な面もあるかと思いますが、日頃の社会教育活動の成果をいかんなく発揮して、盛大に行われることを期待申し上げます。

それでは、ここで、能城所長におかれましては所用のため、退席となります。

本日はご出席ありがとうございました。

【鈴木議長】 続きまして諮問事項に移ります。重要な事項でございます。館長からですね、私ども木更津市立公民館運営審議委員への諮問につきまして、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 木更津市立公民館運営審議会では、社会教育法第29条第2項に記載されていますとおり、「公民館運営審議会は館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議するものとする」と記載されております。本日は、地域交流センター移行にあたりまして、これまで公民館が培ってきた役割を尊重しつつ、さらなる地域づくりや、地域交流を推進するために、より充実した事業のあり方について検討していくために、公民館館長から公民館運営審議会委員の皆様に地域づくりや地域交流の推進を図りながら、充実した生涯学習事業や、社会教育事業を実施する効果的な方法についてというテーマについて、諮問させていただきたいと存じます。それでは鈴木委員長、山下館長、恐れ入りますが、前の方へお願ひいたします。

■ 諒問文読み上げ

【鈴木議長】 皆様お聞き及びの通り本日、参加しております各公民館長よりですね、地域づくりや地域交流の推進を図りながら、充実した生涯学習事業や、社会教育事業を実施する効果的な方法について、委員の皆さんのお意見をお聞きしたいということでございます。
もう一度、事務局より補足をお願いします。

【事務局】 それでは事務局から補足をさせていただきます。皆様には公民館が大切にしてきたもので、続けて欲しいもの、改善して欲しいもの、変わって欲しいものなど、委員の皆様が日頃公民館について感じることやご意見をいただければと思っています。今後の具体的なスケジュールとしましては、本日委員の皆様から3分程度で諮問テーマについてご意見を賜りまして、今回出された意見については、事務局で集約を行い、メールなどでの

皆様にお諮りをしまして 12 月開催予定の第 3 回定例会において集約したものをもとに、委員の皆様に再度ご意見をちょうだいする予定でございます。

その後、第 3 回定例会で取りまとめたものを、再度委員の皆様にご意見を伺い、3 月の第 4 回定例会において、審議会委員の皆様からのご意見をまとめたものを館長に答申していただくスケジュールを想定しております。以上となります。

【鈴木議長】 ただいま事務局より説明がありましたけれども、ご意見・ご質問のある方は挙手にてお願いいたします。

【鈴木議長】 秋元委員。

【秋元委員】 私、以前は公民館とほとんど接点がございませんでした。私は自治会の出身です。自治会でも 10 年以上前に自治会の力が落ちてきて、自治会を脱会する人が増えてきていると。それで自治会として、どうしていくか、という問題点を整理しようということで動きました。その時に考えたのは、1 つはお金の問題で、公共なものの負担は、それまで自治会費からすべて払っていたと非会員の方が町中に住んでいますので八幡台では非会員の方も、教育費ということで、お金を支払っていただいております。もう 1 つは、自治会の班長さんの班長業務の見直しをして 4 割は削減しました。自治会で色々催し物をしても、その人たちが参加するとですね、自治会に目をつけられるのではないかと。場合によっては自治会役員にさせられる、そういう負担感はないようにならないといけない、ということで私が目をつけたのは公民館でした。公民館が活性化すれば、地域も活性化できるということで、公民館と接触し、自治会のいろいろなことを公民館と組んでやり出しました。そうすると公民館共催になり、周りの人たちが参加しやすいです。そういう意味で、公民館はある意味、地域の活性化の基盤材になると私は考えています。そのノウハウをやはりきちんと理解をしていかなければいけないと思っています。それと公民館の職員の資質、職員にやっていただきたい点としては、各住民に対する根回しというか分析です。私ども八幡台では、福祉ボランティアが 20 年続けていました。そこが人員不足でやめる、という判断になりました、周りの組織はそのことを全然知らなかったのですが、公民館の職員が気にかけてくれまして、色々なサークルに声をかけて、後ろ楯できないか応援できないか。と、その人が一生懸命動きまして、結果的に色々な団体から協力者が出て、運営がどうにか継続できるようになりました。それ以降、3 年続けていますけれども、公民館の職員が毎日、色々なサークルの皆さんと会って話して、いろいろなその辺の結びつきをつけてですね、この人ならば、こういう話ができるだろうというように、結びつけた結果ですね。そういう意味では丁寧な方、人付き合いというか、人と人との関係性を繋いできたのは公民館があるのです。

私は少し市民協働部の方と議論はしたことあるのですが、はっきり言いまして、人が集まれば、当然そこで交流が生まれると。何らかの交流が生まれるからそれで十分だと、基本的には自分でやりたいという方については後押しをします。躊躇している人については知りませんよといういい方みたいな形で来ています。今まで公民館は、躊躇している方とか悩んでいる方の、声を聞きながら、後ろからそれとなく後押しをしてですね、その人のサークルの立ち上げの協力をしたり、大変なところは色々な人の紹介をしたりして動かしてきたのですね。そういう意味合いで人にやさしい。これは個人的な人柄の問題もあるでしょうけれど、そういう人がいることによって初めてうまく地域との結びつきができるのだと思ってます。そういう意味では、公民館が、今度は交流センターになったとしても、やはり社会教育のあり方とか、生涯学習、要するに、もう1回勉強し直す場所。学校卒業すると、大人が勉強する場所というふうに位置付けてですね、職員には丁寧な対応をしていただきたいと思っています。

【平野委員】 中郷の平野と申します。申し訳ないですけれども、教育分野あんまり詳しくないので、ちょっと教えてもらいたいと思います。生涯学習と社会教育の違いは、何かよくわからなくて、ちょっと自分なりには調べたのですが理解が間違っているとか、論点がかみ合わなくなるといけないと思って、説明をお願いできたらなと思います。

【事務局】 社会教育と生涯学習の違いということですが、社会教育は社会教育法にありますが学校の教育課程で行われる教育活動を除いて主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動となっています。生涯学習は例えば、生涯に渡って学習するという理念を示しております。生涯学習は個人の学習を含みます。

【平野委員】 そうしますと対等ではなくて、生涯学習の中に社会教育があるという図式ということですね。生涯学習というのは、概念考えで、やり方として、教育による学習と、自分でやる自己学習が含まれていると。そうすると今回の公民館が社会教育から外れて、地域交流センター、4月からの地域交流センターになったときはどの学習の中に入るのでしょうか。学校教育じゃないのですよね。家庭教育でもない。個人学習だってことですか。あと何か。公民館だとできなかった。宗教はそれだけできなかつたので、それができるようにそれをやる学習とかですか。

【事務局】 今回地域交流センターに移行して、新たにできることとしましては、例えば、地元でとれた野菜につきまして、それを例えば販売をすることができるようになります。それで、地域の人と交流をつなぐことにより、新たな交流が生まれて新しい地域の方が、例えば文化祭に参加できたりということも、考えられると思います。また、今後も社会教

育の推進は地域交流センターで行いますので、なくなるということはございません。

【澤邊委員】 教育関係も全くの門外漢なのですけれど。会議に参加して、かなり違和感をもって感じているのでは、活動報告など見ても、教育、教えてやる。「学べ」という文面が結構出てくるのですよ。そこはすごい違和感があるのですよね。学ぶとか、何とかというのは自分の問題であって、公民館の館長さんが、協働するとかね。教え込むとかね。という文面が、結構出てくるのでそこはどうなのかなと。公民館の役割として、社会教育とか生涯学習とかっていうことがあるのですけれど、そこにあんまりフォーカスしてしまうと、人は寄ってこないと。やっぱりあそこに行ったら面白いことあるよねと。例えばカフェがあるとか。年配の女性はおしゃべりが好きですから、カフェには女性、年配の方大勢の人が集まるのですよ。それは楽しいから行く。何かを学ぼうと思っていく人は、ほとんどいない。あんまりそこにフォーカスすぎると、活性化ってないのだから、それはそれでいいのですけど。あそこに行って公民館のあそこにいた。色々な何かがあって楽しいよねと。その楽しむことは人によって千差万別なので、お茶が大好き、ダンスが大好きって人もいるし、色々な趣味が好きだという人もいるし、おしゃべりしたい、という人もいるだろうし、そういう意味で、教育・学習、そこはあんまり、強く考えないほうが、私はいいかなと思います。

【秋元委員】 今言われた方のように、教育をあんまり出すなというのは確かです。ただ、学べる場所を残しておかなければいけない、ということです。今、市民活動支援課の資料を見ますと、自分で立ち上がってる人には、応援しますよ、と言っているので、自主努力・自主的な関係ですよね。そこで、どうしようか迷っている人のために後押しをするということは一切載ってないです。ほとんどの方が立ちどまってどうしようか、じゃあ悩んでできそうもない、というのでやらない人が多いのですけれども、それを後ろからちょっと支えたり、悩みを相談してこういうふうに解決する、という相談してきたのが今までは公民館の職員だったのです。そういう点をきちんと残していただきたいと思います。また先ほど言いました「勉強の場」とか、あまり出すことはないのですが、その場所をしっかりと作っておかないと、20年後、今の40代50代の人は、正社員が4割ぐらいしかいませんから、ほとんど非正規ですから、経験がない。50、60、70歳になって何かやろうとしても、全くやることができなくなるのが現状です。そういう意味でそこでもう1回自分で学び直しをしたいな、という人が出でくれば、その時きちんと学べるシステムを作っておかないといけないのではないか、というように思います。そういう意味では、名前が交流センターになろうが、そういう職員なり、社会教育的な基本的な考え方を持ってる職員がいらっしゃれば、それでいいと思っています。

【鈴木議長】 ありがとうございました。今発言された方々の話を聞いていると、この後地域交流センターに対しての、ご要望とも取れるのかなという気もいたします。今から、先ほど事務局から話がありましたが、1人三分程度で各委員の皆様からご意見をちょうだいしたいと思います。

先ほど、山下館長から話がありました、皆さんの発言はですね、3回目の公運審ですね、例年ですと文化祭が終わって文化祭の報告を各館長が1時間以上かけて報告をしてきたのですけども、それもやめてしまおう、見ればわかる。私個人の考えですよ。そうではなくて、今日皆さんからいただいたご意見をまとめつつ、第4回目の審議会までには館長の皆様に諮問答申という形で正式に上げさせてもらう。そういうスケジュールで考えております。そのあとはですね、諮問答申を受け取りました。それで終わり、ではなく私どもの意見がどこまで通っていたのかなと。とにかく私どもは、館長からの諮問を受けて、自分たちの意見を述べる。皆さんのお気持ちを館長に吸い上げていただくということを期待しながらですね、お1人ずつご意見をお願いしたいということです。

今日、鶴岡さんが県外に出張に行っているようでございまして、鶴岡さんから文書、ご意見をちょうだいしておりますので、先に、事務局からご披露させていただきます。

【事務局】 それでは私から、鶴岡委員の意見を代読させていただきます。

公民館が大切にしてきたもので続けて欲しいもの。

1、地域に密着した地域の核としての役割の継続。単なるスペース貸しの施設にならないよう、これまで続けていただいた公民館職員と地域の方々の関わり、繋がりを大切にして欲しいです。地域に存在する組織。自治会、祭礼、消防団、青少年関係組織、社会教育組織、社会福祉組織などを引き続きつないでいただきたいです。

2、元校長先生の公民館長としての採用。これからを担う子供たちが地域に関わる上で、中学校区に存在する公民館はとても重要ですが、公民館と学校が日常的に関係性を持つことは、簡単ではありません。そのような中、元校長先生の役割はとても大きく、学校と地域、公民館をつなぐ上で必要だと思います。公民館事業の良い点は文化祭の開催です。年に1度ではありますが、老若男女を問わず、地域、か、地域の人々が集い、1つになることができます。地域の人と人との繋がりの中で、地域づくりが育まれていきます。課題は、若年層や、日中働いている現役世代の方々の利用が少ないと感じます。今までの枠にとらわれず、例えば自己啓発セミナーや、魅力的な講演会などを、若者が利用しやすい土日や、平日の早朝、夜間に開催するなど、地域の若年層が気軽に利用できるような方法を検討して欲しいです。地域交流センターが、公民館同様に、世代を超えた人と人をつなげる場として、場所の提供、ハード面と、カリキュラムの企画、ソフト面を通じて、社会教育、生涯学習とボランティア精神の調整が図られるという大きな役割を果たしていくことを願っております。

人と人との繋がりがなお一層希薄化している今、公民館は重要な公共施設であり、教育機関であると考えます。これらの役割をぜひ地域交流センターにもやっていただきたいと思います。以上です。

【鈴木議長】 ありがとうございました。それでは、順番にお願いします。

【山下委員】 波岡公民館の山下です。やはり公民館というのは地域にとって大変重要な核であり、今まで培ってきた交流の場として、交流センターになったとしても、今後も大切にしていくだけだと思います。公民館と交流センター、名前がすりかわるぐらいで大して変わらないのかなという向きもありますけども、やはり地域で交流できる唯一の場所だと思っております。それでちょっと疑問点がありまして、活性化するに当たり、公民館職員の勤務体制が変わってくると思うのですね。今まで9時だったのが8時半。それから月曜の休館が月曜も開館するということで、職員のそういう増員はあるのかどうか、やはりこの体制が変わることによって、勤務時間も変わってくると思います。それで活性化して欲しいというけれども、公民館の予算は大変配分が少ないようなことを聞いておりますけれども、活性化するにあたって、今後予算が増額されるのかどうか、そういうところも重要なと思っています。

それで、今の既存の建物では、フリースペース的な場所がないので、いつでも誰もが集える場所として、フリースペース的なものが私は欲しいと思っております。波岡公民館が開館してからずっと携わっておりますけども、子育て支援のときも、公民館を利用してきました。それで今、波岡公民館においては、他の公民館と違う状況下にあると思います。というのは、どういうわけか、この二、三年の間に若い人たちが自分たちでお勤めしながらでもサークルを立ち上げており、大変活性化しております。1つは乳児、幼児からいわゆる小学生期の子供のサークル。それで波岡公民館の裏のプレイパーク広場、それとまた学校に馴染めない子などのサークルが立ち上がっております。ですから、ここをやはり、私どもシニア世代が応援していかなければなと思います。立ち上げてもやはり二、三年経つと壁にぶち当たることが多いようですし、そのメンバーの確保が必要だと思いますが、やはり今までの既存のものの事業の計画では残念です。

【澤邊委員】 岩根西地区の公民館運営審議会委員の澤邊と申します。公民館の役割ということで、非常にやはり一番大事だっていうところですけれども、今日も議題になっておりますけども文化祭の開催ですね。やはり一般の若い世代、若い世代もお子様がいて、それで小学校ですね、小学校の行事、小学校の合唱とかそういうのも公民館であるわけです。そうすると、そこにそれを見に来る人達、たまにしか公民館来ないけれども、やはりその時に、できるだけこの地域ではこういうことをやっていますよということで、文化祭の行

事をじっくりと見てもらい、それによって、何か得るものがあるのじゃないかと。そういうことを一番、私どもは期待しています。特に岩根西地区っていう地区の特別な条件ですが、水の被害が大きい。つまりずっと海岸線に沿って、小櫃川の氾濫とか、津波、台風の停滞による高潮とか、そういう災害に非常に直面する場合なんかありますので、私どももこの公民館のやはり中心的な役割としては、非常に防災面、防災の組織の中心となる、そういうちょっとした力を持っております。公民館のやはり一番大事なところとしてはそういう面があります。

それから、文化祭が一番メインですけど、その他に、例えば親子3代グランドゴルフを公民館で企画しております。親子3代がグランドゴルフやる。普通は老人クラブがグラウンドゴルフをそのままただ自己満足でやっているだけなのですが、親子3代そろってこういう楽しいところありますよってことで、そういうことも公民館でやっております。そういう面で、防災と人の繋がりですね、それを大事にしてこれからも公民館の活動を十分に援助していきたいと思っております。以上です。

【小倉委員】 畑沢の小倉といいます。この質問の内容について思いを持ったこといくつかお話をしたいと思います。1つは地域づくりとか地域交流の推進っていう言葉があるのですけれど、これはちょっとですね、非常に綺麗な言葉だし、便利な言葉なのですが、具体的にそれをブレイクダウンして誰がやるのかっていう問題ですね。1つ、まちづくり協議会は非常に言葉触りがいい。協議会っていう形ですが、現実はいろんな所属団体が集まっているだけの話であって、基本的には1つの団体として自走できる状況じゃないのが現状だというふうに思っています。

従って、そういうことじゃなくて、そういう実際に地域づくりとか地域交流っていうことを考えるのであれば、いろんな各団体の調整役として、もうちょっと積極的に公民館が第三者として中に入っていただきたいというふうに思います。

それともう1つ現実に公民館の中では子育て支援とか、青少年とか、高齢者の福祉活動とか、いろんなカフェとか、あと防災活動、敬老の集い等いろいろあるのですが、みんな縦割りなのですね。横との連携ってほとんどないですよ。従ってこれも1つ1つは全部まちづくりに関わる問題だと思いますので、そこの横をつなぐ役割として、1つは公民館が大体のいろんな活動をもっと中に入り込んで、サポートしたり、関与していくという形が必要かなと思っています。

それからもう1点、公民館の人事です。やっぱり職員の入れ替わりが非常に速いのですよ。せっかくなんか親しくなっていろんなスポーツしていただいたと思ったら、その移動だって変わるとか、いう形でまた新しい方が見えるという形でまたゼロからということになるのですね。従ってもっと地域に根を張った、いわゆるコーディネーターができる役割を果たす人材の配置、それから人の数も含めてですね、そこら辺を再考していた

だきたいなというふうに思っています。

それからもう1つは文化祭に関連してなんですが、文化祭はサークル運営協議会っていうか実際の実行委員会メンバー見ていくと現実サークルの、各サークルの代表者とか自治会とか、はっきり言ってお年寄りばかりなのですよ。実際に企画したり、実行するのは、青少年や中学生、子供さんとか、もっと保護者をたくさん集めるとか、育児中の方もやるとかいう形で住民の世代を超えた広がりをもう少し考えた中で、いわゆる文化祭をどうするどうしていくのかということを役割分担しながらもっと幅を広げていくということが1つの地域交流センターの変わり目といふか、関わる1つの何とか証としてすぐにできるのじやないかなというふうに思っています。以上です。

【梅澤委員】 清見台公民館の梅澤と申します。強みが公民館の特徴の1つに体育館を併設しているという点があります。今この体育館が大変な人気だそうです。職員が対応するのが大変なくらい申し込みが殺到していると聞いています。これ以前は、これほど人気ではなかつたのは、体育館を使っているサークルと公民館は割と近しい関係にあって、文化祭とか美化作業とかそういったものにも積極的に参加して、公民館附属の体育館だからここはしょうがないよねっていう認識を持った団体ばかりでした。

ところがね、インターネット等で申し込みができるようになってからは、そういうふうな、公民館に帰属というか、清見台公民館の附属体育館を使っているというのはわかっているのだけど、何ていうのでしょうか。だから何っていう感じなのですよ。だから今度は文化祭がもうすぐあるのですが、それだけ利用団体は増えてもお手伝いをする団体が本当に少ないです。利用者側の意識の変化、これがネットで申し込みのようになってから体育館という特異性もあるのかもしれませんけれども、大変感じるようになってます。

公民館と利用者側の結びつきというのが今後ですね、申し込み期間とか、料金の優位性はあるとは言っても、とても気楽に、個人とか営利目的でも借りられるようになるっていうふうになった時に、その使う側の気持ちや意識、地域交流センターに対する意識というのが、何かだんだん薄れていってしまうのではないかと。果たしてそれでいいのだろうかっていうのは、今とても私は危惧しております。ただそれが別にいいのであれば、別に全然構わないというのであればそれはいいのですけど、もしそれが望ましいものでないとすれば、やはり利用者の意識をこれからどういうふうに変えていくのか、離れていく意識をどういうふうに取り戻していくのか、ちょっとそこのところをこれから課題なのかなというふうには、切に感じております。

ちょっとこれから公民館で明るい話題はちょっとないんですけど、そういうふうなことをちょっと今、非常に感じています。

【原田委員】 東清公民館の原田と申します。先ほど生涯学習と社会教育という話が出たのですけれども、生涯学習っていうのは、結構個人でするものですね。何かを習いたいと思ったら今の人たちはいろいろ調べて、1人でも習いたい、やりたいことをやりに行くのですよね。だけど、公民館に行く人が多いのはなぜかというと、私も公民館でサークル持ったりしていますけれども、何かというとやっぱり縛というか、その近くの人たちが集まって何か1つのものを中心にして繋がっているという繋がりが、心地よいから公民館に集まるのかなと最近思っています。だから今までの公民館の取り組みの中で、結構ブロックで、複数の公民館のブロックで企画や事業を行ったり、いろいろな新しい試みをしてくださってそこに参加して、交流が広がったという感じはすごくあると思っています。だんだん良くなってきたと思います。地域交流センターになって市長部局っていうのですか、教育委員会から市長部局に変わったときに、行政のことがすごく便利になるのだったらそれもいいと思います。なぜそう思うかというと先ほどまちづくり協議会の話も出ていたのですけど、実際に町内会とかまちづくり協議会とか、何かやる人を探すのが大変とか、もう固定化しちゃって進まないとかで、そのことも公民館の職員が事務局になっていっぱいいっぱいでっていうような気がするのですよね。でも市民活動支援課が入るのだったら、市としてやっぱり町内会の働きかけとか、市民の働きかけはそこまで窓口にしてやってくれれば、公民館の社会教育としての役割がもっとはっきりできるのではないかって。二極化というわけではないですが、職員が関わるものが2つ、専門職みたいな方と行政みたいな方が、お互いに業務を分担すれば今の市、公民館の職員の方はすごく大変だと思っているのですよね。だから、文化的なことそれから市政に関するこの住み分けがうまくいけば、もちろん市役所に行くより公民館に行った方が、お年寄りは楽ですし、行く機会も増えたらまた刺激を受ける機会もあるのじゃないかなと思います。地域交流センターという名前の通り、市民が交流する場所になってくれたらいいなと思うし、公民館として今までやってきた文化的な発信っていうのかな、そういうのがもっと専門的にそっちに力がかけられるような運営や人の配置みたいなものができればいいなと私は最近思っています。

【秋元委員】 私が先ほど言いました自治会を活性化するという形で入って、自治会の中でいろいろ議論をしてきました。総論賛成各論反対で物事は全然動かなかつたときに、まちづくり協議会で交流するとお金が出るよ、そしたらみんながやろうという話になって、じゃあ誰がやるんだ?となり、やり手がいないのですね。要するに屋上屋ですから、みんなやりたがらなかつたと。その時に、あなたが好きにやっていいよ、と言われてそれで私はまちづくり協議会に入りました。今、まちづくり協議会で私は交流部をやっているのですけれども、八幡台は福祉部という名前をつけて、私が面白いことを自分で勝手にやっております。カフェもやっており一応責任者としてずっとやっていますが、ただ単にし

やべるだけじゃつまらないから、公民館のサークルの皆さんのが発表の場ということで、いろいろ声をかけて定期的に入ってもらったり、人が集まってくれるので、健康推進課の職員に体調チェックに来てもらったり。あとは、お年寄りが多いので、薬剤師さんを年2回ぐらい呼んで薬の話をしてみたりと、ありとあらゆることができるということでやらせていただいてます。

基本的にはまちづくり協議会やっていますが、自分が企画している中身は、大体1ヶ月に3本やろうというのを最大目標でやっているのですが。なかなかできないのですが、お年寄りむけが1で子供に関しては2ぐらいの確率でイベントをやっております。まず、子供たちが気楽に公民館に来るようになれば、その子どもたちが中学生になっても気楽に来られるだろう、そこで繋がれば高校生になっても来るだろうと長い時間考えておりますので、子供たちの事業を一生懸命、これが面白そうだ或いは、他の公民館でやっている中身も、おもしろそうなものがあれば、取り入れてやっているというのが現状です。若い人達は子供が来るとお母さんが来ますから、若いお母さん方にいろいろ声かけますと、30代40代のお母さん方が私に言ったのは、焼き芋をやったことがないというお母さんが多かったので、じゃあ、と大人のための焼き芋祭りをやっています。そうするといろいろな人が繋がって、そこに参加していた人が、色々な方と交流してですねサークルを立ち上げたりしていただいてます。微々たるものですがれども動きが出ていると思っています。それを続けていきたいと思っています。

【室前委員】 文京公民館の室前と申します。自分と公民館はどんな繋がりだったのだろうっていうのをちょっと考えてみて、私はあまり公民館に行ったことがない人だったのですけれども、大体10数年今おつき合いをさせていただいています。最初の出会いは3年間文京公民館長をやらせていただいたことです。そこから公民館の活動がスタートしました。それで退職した後、今度は公民館の外から利用者としていろいろなイベントに参加させていただいたりして、また今プラス公運審の委員をやらせていただいて、また違った角度から、公民館を見ているっていうか参加しているという形になっています。

一番感じていることは、公民館がどの公民館もみんな違うなと公民館によってそれぞれ特徴があって、雰囲気も違うなというのが一番の印象でした。例えば、今お話をたくさん出ていますが、公民館まつりはそれぞれのウリというか特色が特に出ていてとても面白いと感じました。どの公民館も地域の住民の方がお手伝いをしていて関わり方も様々ですし、催し物も本当にたくさんあって様々です。市内15の公民館がそれぞれの地域の特色を生かして、とても個性豊かな運営をされていることはすてきなことだと感じています。今は公民館の利用も、この地域、中学区とかの地域を超えて参加できるイベントがたくさんあって、自分の住んでいる地域以外の公民館にも参加できるようになってきていて、より多くの事業を体験できるようになっていますけれども、最近は、主婦

の方とかお子様連れのイベント参加を呼びかけても、仕事されている方が多くてなかなか集客ができないのよ、という声も耳にしています。高齢化が進んでサークルの減少もある中で、地域住民の方がどんなイベントなら興味を持って参加できるのか、参加したいと思うのか、何を公民館という場所に期待をしているのかとか、地域ごとに違うと思うので、それを分析できたら地域のニーズに沿った公民館運営ができるのではないかと思います。誰でも気軽に参加できて立ち寄ることのできる公民館が地域交流センターになったとしても、幅広い年齢の方たちが憩いの場所として、私が公民館に最初に感じた「公民館って意外と楽しいところだったのだ、面白いことやっているのだ」というような印象を多くの人が持ってくれてもっと活性化されていったらいいなと今は感じています。

【山口委員】 富岡公民館の山口です。富岡公民館はですね、少子高齢化でかなり小学生とか中学生が減っております。富岡小学校も廃止されておりまして、バスで等で小学生が通っていますけれども、富岡町の小中合わせ多分30か30名足らずということですね、小規模であります。

その中で、月に1回ですけれども、第3水曜日に「にこにこカフェ」ということで地域の人と、今年4月からですね富来田地区の方も来て集まっています。1回で二三十名程度の参加があり交流しております。そういう中で色々話をしていますが、なかなか若い世代や仕事をしている人はなかなか来てくれない。夜にそういう活動を今後もやっていかなくてはいけない部分があると思います。

一番のネックは少子高齢化で、富来田地区は2000人近く減っておりますのでね、今後どうしていくか。ここ10年ぐらいしたらもっともっと高齢化して、60歳以上が60%になっていく地域だと思います。その辺は全体で見なおしていかなくてはいけない部分があります。

でも、良いところは良いところで空気がいいとかありますので、子育てがてきて、かなり条件があると思いますけど、買い物スーパーとか医療がなく利便性もちょっとない。交通機関もないという部分がありますけども。そんな地域でいかに公民館を担っていく若い世代とかと交流していかなくちゃいけない部分がかなりあります。

今の事業を含めてですね、交流センターでも小学生の社会教育、今と継続していただくということありますので、そうなると若い世代に声かけていかなくちゃいけない部分がありますので、それも含めて公民館長と進めていきたいなと思っております。

【平野委員】 中郷の平野といいます。私は公民館運営審議会になって3年目で、なったときぐらいから初めて公民館のサークルに参加いたしました。はたから見ているとちょっと入りづらい感じだったんですけど、中に入ると色タイプントがたくさんあって、面白くて、しょ

つちゅう自分の都合の合う時、参加するようになりました。

それで私の最近思っていることが、木更津市もそうですけど、不登校生の居場所と不登校生がどんどん増えているということを聞きまして、不登校生の居場所づくりにはならないのかと思います。以前、畠沢公民館さんで、何かイベント的にそういった場所を作たとお伺いいたしまして、また今の波岡公民館でもサークルで立ち上がっているという話も伺ったのですけれども。そういった、学校に行きたくてもいけない、または行きたくない子に地域の関係で受け皿じゃないですけれども、何かそういったものに公民館がなってもらえたならなあと思います。それでやるのでしたら1, 2ヶ所じゃなくて、全15公民館、同時にやらないと意味がないとか。例えば、やっぱり不登校で一番いいのは自分の近くのところが距離的にはいいのでしょうかけれども、行きづらいとか、遠い方がかえって行きやすいとか、そういう方もいるでしょうから、もう15館全部同時にそういった居場所を1つの部屋とか、ちょっとしたスペースとかを開放して、少しでもこの地域の方、サークルとかに参加されるてる方と交流が持てればまたそれでもいいだらうと思います。以上です。

【実形委員】 金田の実形です。金田地域交流センターの現状のご報告を最初にさせていただきます。

1日20団体ぐらいが利用されていて、月間で、大体500以上の団体がご利用いただいているので、使っていただいているのかなという地域の認識です。状況的にはやっぱり熟年の方が多い、若い人はあまり少ないという状況です。

2つちょっと問題がありまして、一番地域の人間がどうかと思っているのは、新住民、新しく移ってきた人たちと、それから今までの住んでいる金田の人たちとも接点交流が今ほとんどない。そこが地域交流センターの中にあるのかなっていうふうにちょっと考えているのですが。今まで金田に住んでいる人たちが約1000世帯、新住民が3000世帯、要するにもう逆転しているのですね。新住民の人たちはもう地域の行事から、なんかもほとんど無関心、知らないよと。民生委員とか青少年何とか、1000世帯で全部4000世帯をカバーしなくちゃいけない。色々な矛盾がいっぱい出ているのですけれども。それはどうするのかといつても、ほとんど、どうしたらいいのかなっていうのが、現実ですね。1つの案、案でもないのですが、熟年世代は、地域交流センターにちょっと遊びに行こうとかお茶飲みに行こうとかと来ているので、小学生とか中学生は新住民の子どもたちが多いのですね。だから、その新住民の人たちと旧住民との交流の設定ができればということを考えて、小学生中学生があそこ面白いね、ちょっとお茶でも行こう、オセロをやりに行こうかとか、トランプしようかとか、そういう動向がもしあれば遊びに来るのじゃないかという。だから、先ほど秋元委員がおっしゃった、小学生とか中学生をいかにして、学校終わったから行こうぜみたいな。そういうような環境を作つてあげたいなあとは思うのですけれども。それが今一番、考えていることです。

【石井委員】 岩根に住んでいます石井と申します。前回の会議が初めて参加させていただいたので、私は今まで全く皆さんみたいに、地域の何か活動や、教育の活動をしていました、ということを全くしていない一主婦です。前職だった青木さんが、なぜか突然、石井さんやつてくれないかと言われて、青木さんが言うならやります、と言って引き受けた、本当に何もわかつていないうだの一主婦なので、その観点からという話になってしまって、多分言っていることが、全然当てはまらないという可能性もあるのですが、子どもが3人いまして、もうみんな独立して大きくなっているのですけれども、子どもたちが小学生だった時に公民館まつりに年に1回遊びに行く。公民館そこにあるね。オセロとかやるのか、じゃあいってらっしゃいと言って送り出していたぐらいです。それ以外でほとんど公民館というところに訪れたこともなければ、使わせていただいたこともほとんどなかったです。なので、突然この会議に参加させていただくようになって、何かここでいえることと言われても、正直何も思い浮かばないのですが、全く何も知らない立場から言うと、建物がもうちょっと新しい方がいいじゃないのかなということ。

岩根公民館は多分、本当に古い建物で、金田は新しく建ちましたし、公民館から地域交流センターになることのプラスって何なのかまだ何もわかつていないうですが、交流センターという名前で金田が建ったのであれば、これからみんな公民館じゃなくて地域交流センターになっていく時に、予算とか出て建て替えとかはできるのですかね。木更津市の問題になるでしょうから。でも、やはり先ほど防災の拠点であるというお話をあったと思うのですが、東日本大震災の時も、やはり小学校とか中学校が避難所になってその時に、事務局として動いたのは公民館の方達だったという話をテレビ見たことがあります。防災拠点になるのであればなおのこと、今後もう公民館ができて50年というお話を先ほどありましたけれどもそれだけ古い建物になってしまふと、防災の拠点になるとか、いざというときに皆さんのが使う建物としては、だんだんと機能を失っているのではないかと思うのです。建物が古くなつて、岩根公民館に調理室があるのですけれども、小学校の時にちょっと使わせていただいたことがあって、最近ちょっと伺つてみたら、もうほとんど調理室の色々な設備が使えなくなつてしまつてます。そういうことも含めて、せっかくあれだけ大きな建物があつても、使う機能がどんどん失われてゐる。それはやはり建物の老朽化ということもあるのかなと思うので、予算の問題ももちろんあるでしょうけれども、皆さんで使うものであれば、ちょっとずつ直していく、今って、古い中央公民館も壊してしまつたし、耐震性の問題もありますよね。それだけ古くなつくると、そうするとその耐震補強を小学校や中学校ではやっていて、いざというときに、公民館に集まつても大丈夫といえる場所に、していくための皆さんの知恵や心を使っていただくことも、せっかく交流センターになるのであればね。金田でできたのであれば他の地域でもそれが進んでいくといいかなと思います。

【実形委員】 関連して、今金田のお話が出たので状況説明を追加で申し上げますと、月間 500 団体ぐらいのご利用されている方で、聞いてる話では金田在住の人の比率が半分ない。500 だったら 3 割か 4 割ぐらいかなっていう。その 500 団体の使ってる人たちの内訳見ると、大体 3 割か 4 割ぐらいが金田で、木更津市の他の地域、木更津市の市全体から皆さん、金田に来られる方達の方が多い。だからやっぱり建物は綺麗なほうがいいというふうに思います。

【石田委員】 富来田公民館の石田です。富来田公民館では、各行事において小中学校の協力により子どもの参加が増え、参加者が増えることによって付き添う保護者が増え、2 世帯、3 世帯 4 世帯という形で公民館へ足を向ける方が増えた気がします。子育て世代の親が少しでも何かしたいと思って行動している人も多いので、すごくいいかなと思っております。若い人たちが使うことによって、ネットワークが広がり、さらに利用者が増えるというところが期待できるかなと思っております。唯一のお願いとしては、修繕の予算がないというところです。そこは事前に緊急用の予算などを組んでいただけたとあります。あとは使用料については、ネットで予約できて非常に便利になった中で、支払いもセットできたらありがたいなと。または夜でも支払いができると助かります。一応、今、アクアコインとかだと事前にお話をすればできますとなっていますが、もっと便利にさっと支払えるようになったらいいのかなと思っております。名前が変わっても内容としては変わらず、むしろ利用時間、開館日が増えるので使いやすくなり、近くの人は近いし、値段的にもどこかで何かやりたいからスタジオの部屋を借りてというと、値段的に考えると公民館の方が断然安いので、その点を考えると主婦などは活動しやすいのではと私は思っております。あとは公民館だよりが回覧板で回っているんですけど、目に入らない人が多いので、それをちょっと学校と協力することで、紙面ではなく、今もうメールとかになっているので、その仕組みを使用しての公民館だよりを学校に配ると。さらに、親御さんに届き、利用者が増えるかなというふうに思っております。

【小山委員】 木更津ユネスコ協会の小山と申します。私も今までの皆さんとの色々な発言を伺い、やはり公民館の人たちの人づくり、繋がりを大切にしてくださったり、背中を押したりしてくださっている、そういう良さをより多くの人に伝えていくには、やはりまだまだ知らない方が多いかなと思うので、そこを伝えていくにはどうしたら良いのか、ということを考えました。

それで、文化祭がやはり公民館としては 1 大事業ということなので、その文化祭の何でいうのでしょうか、出前文化祭じゃないですかけれど、地域の小学校中学校、あと高校があるのか大学があるのかわからないのですが、そういうところへ、何か授業の一環

でもいいし、そういう学校の文化祭の一参加団体みたいな感じで、公民館から参加みたいな形で、例えば発表をいくつかやれるようなサークルさんですとか、何か1つというのじゃなくって、サークルさんに展示してみるだとか、発表してみるだとか、何か作ってみるだとかそういうのをやってもいいのかなあなんていうふうに思いました。そうすれば、子どものうちから、「公民館って何か楽しいところがあるのだよ」ということを知ってもらえて、何か親子で公民館に足を運んでもらえたら嬉しいなと思いました。

【小出委員】 文化協会の小出と申します。私もこの審議会に参加させていただいて3年目です。最初の頃は、館長さんの方から色々な事業とか、あと公民館を活動されている方のお話を聞かせていただいて、それから今度はそれと並行ではないですけれども、地域交流センターへの移行についてのお話がでてきたんですね。初めの頃はいろいろ館長の皆様が、こういうまちづくりというか、その地域に合わせた色々なことを考え出して、いろいろ少子高齢化ということに関して、その地域の考え方や公民館のあり方相違の、でもすごく皆さん本当にその地域のために努力してくださってるんだな、と言ひ方悪いのですけれども、他人事のように伺っていたのですね。それが、交流センターに移行に来年なることはもう決まっているわけですから、それに対してどのようにしていくかということを今、皆さんいろいろ、要望しているわけじゃないですか。それに対しては今まで公民館の方々が努力してきてくださったことを、例えばいろいろな意味で違うことはたくさんあるかと思うのですけれども、地域交流センターの方に移行したとしても、それをまた違った形でまちづくりをしていけたらいいのかなと私は思っております。

【市川委員】 非常に難しいですよね、諮問事項が。これは各館長さんが中心になって今までやってきてのことの中に答えがあるのじゃないですか。ただそれを、地域によって様々な取り組みをしているわけですね。その中に今言ったような効果的な方法があり、それを一般化していくと。こういうような部分はうちの方でも使えるよというものがそこに出でてくるのじゃないか、そういうふうに思います。それが具体的に何なのかということなのですが、これは今いろいろな方々が言った部分の中にあるのじゃなかろうかと思います。あわせて、一番初めに鶴岡委員からの意見の文を読んでいただきましたけどなるほどなど。そういう部分がやはり必要なのかなというふうに感じました。

あわせてですね、全く私わかりません。聞いている中ですね、やっぱり1つは交流する場であるということ、誰が交流するのかということですね。今交流しているものは皆さんわかっていると思うですね。その中で、さらに効果的な形でこの交流を進めていくためには、秋元委員の方からも話がありましたように、子供たちをいかに活用していくか、活動の中に組み込んでいくかってことが、これから大きく問われるのじゃなかろうかと思います。やはり、実形委員の方からも話がありましたように、子どもたちが

学校から帰ってきて学童保育にいるわけなんんですけど、公民館にちょっと寄って何かしているこうよと。そういうフラットな場所に公民館がなっていくことが非常に必要な部分じゃないかなというふうに私も日頃から考えております。

【鈴木委員】 最後に、委員長でなくて、一委員として発言します。最後に話す人のうまいところどうなんですが、検討の視点で生涯学習事業社会教育事業の役割、公民館運営審議会の皆さんにはですね、パブリックコメント手続きっていうのがお配りになっているかと思います。ここの 39 番のところに公民館が何でできたか。私も町内会長になるまで公民館をわからなかつたですね。公民館で会議がある、そこから私の町内会長と公民館の関わりが始まっているのですが。公民館は、戦前の反省から、戦後民主主義教育に転換して、憲法で決められた教育云々と。公民館はここからスタートしているのですね。もう館長の皆さんお目を通していると思うのですが、令和 3 年 3 月の私どもからの答申ですね「今日の地域が抱える課題と公民館の現状、住民の学習とコミュニティづくりの拠点としての公民館の役割」ここに書かれている通りにやっていただければ、今までのものが継続できるだろうというように思います。あと、先ほども個人的な意見ということでお話しました。心配してるのはですね、私どもは、館長の諮問委員なので市民活動支援課にものを言う立場ではない。今後、地域づくりのコーディネートをやってくれるのかどうか。私はまちづくり協議会の副会長をやっています。まちづくり協議会を解散しようと、と言ったときには、「解散しないで継続してくれ」と飛んできました。継続しようと決まった途端に何にもアドバイスがありません。もしかしたら会長や館長のところにはあるのかもわかりません。地域住民と市民活動支援課が協働して、地域課題の困りごとの解決、4 月からやるのかもしれませんけれども、というのが現実かなと思います。あと、条例に生涯学習は教育委員会がやるとなっていますが、条例は変えることができるのですよね。話ちょっと逸れますけど、教育長は市長が決めることができます。渡辺市長がこの後ずっと木更津市の市長やってくれればいいですけれど、保証がないですよね。次の市長がすぐに方針を変えることはないと思いますけれども、10 年 20 年経ったらどうなるのだと、その辺を非常に危惧しています。利用者数が増えると言っています。どういうふうに利用者数の把握をしていくのかなど。

【鈴木議長】 ということで、貴重なご意見本当にありがとうございました。この後もですね、それぞれの館長にご意見があれば、また相談していただいて、よりよい公民館を作っていただければと思います。

続いて、各種選出委員からの経過報告について説明をお願いします。まず図書館協議会の小山委員の方から説明をよろしくお願いします。

【小山委員】 図書館協議会についてです。7月18日に任期2年のうちの第1回目の会議が開かれました。正副議長の選出、あと令和7年度事業の中間報告がありまして、吾妻公園文化芸術施設基本研修設計について報告がありました。地図を見ながら、地図というか図面を見ながらの説明で、またいろいろ委員の方から質問などをしました。そこで、今後の図書館サービスについての意見もいろいろ出されました。以上です。

【鈴木議長】 ただいまの報告について何かお聞きしたいことがございますでしょうか。ないようでしたら、事務局お願いします。

【事務局】 事務局より、各種研修会について連絡いたします。本日委員の皆様につきましては冒頭に申し上げました通り、君公連と君公連の合同研修会、9月5日に実施予定だったものが延期になり、11月21日に実施するということで通知をお渡ししております。また、当日の参考資料としまして事例、沖縄県若狭公民館の資料もお渡ししております。研修会参加につきまして本日出席の方はお帰りに受付の方でお伺いしますので、お申出いただければ幸いです。

【鈴木議長】 ただいまの説明について何か確認したい点がありますか。なければ、市公連の各委員会の報告についてお願いします。連携事業委員会の影山館長よろしくお願ひします。

【影山館長】 連携事業委員会の説明

【鈴木議長】 ありがとうございました。次に広報デジタル委員会竹内館長、よろしくお願ひします。

【竹内館長】 広報デジタル委員会の説明

【鈴木議長】 今2つの委員会から報告を受けました。ご意見ご質問のある方はいらっしゃいますか。

【鈴木委員】 私からよろしいですか。広報デジタル委員会なのですか、全部の公民館でスマホ講座をやっていると思うのですけれども、興味のある人或いは必要に迫られた人しか来てないと思うんですね。実は公民館で頼まれてパソコン研修をやっているのですけれど、80歳から90歳の人が対象です。先日パソコンでQRコードを作りましょうということで、「作ったQRコードを自分のスマホで読んでください」と言ったら、読み方がわからない、という、QRコードはどうやって読むのと。読み方の講義はやったことないのですよ。かざせばいいだけだよ。と。だから、先ほどもデジタルで予約ができるが、デジタルを使えない人をどうやって、使えるようにしていくのか非常に難しい問題だというように

思います。おそらく、来年度も市長部局に移ったとしてもスマホ講座だとか、継続すると思うのです。だけれど、受けたくても足がない人もいるわけですね。先ほども委員の中から話ありました。高齢化で動けない人をどうするのか。本当に難しい問題です。利用者数を増やす、利用率を増やす、本当にどうするのかということと一緒に考えるというと綺麗な言葉になるのですが、私には考えがありません。とは言え大きな問題だと思います。その辺を、3回目の公民館運営審議会で何か少しでも解決策が見つかればいいなと思っています。以上です。

他に、何かございますでしょうか。

【山下委員】 鈴木委員長さんがこういう方式の形の会議をとっていただいて厚く御礼申し上げます。というのは、一人一人の意見がやはり各地区の公民館運営審議会の委員の方の意見が聞けたということがとてもよかったです。それぞれみなさん意見を言いたくても言えない部分もきっとあるかと思うので、今日のこういう会議の仕方が私は大変よかったです。ありがとうございます。

【鈴木議長】 3回目またどういう方向でやろうかと打ち合わせをさせてもらいますけれども、本当に今日の意見等を館長の皆さんに吸い上げていただいて、その先ですね。市の方が取り上げるかどうか。取り上げていただけることを期待してですね。今日、以上ですべての審議終了ということで、よろしいでしょうか。それでは議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

【事務局】 最後に連絡事項です。「オーガニックインダストリーフォーラム in 木更津」が10月31日の金曜日に実施されるイベントです。興味関心ある方はぜひご参加ください。それでは、長時間にわたるご審議ありがとうございました。これをもちまして第2回定期例会を終了させていただきます。慎重審議にご協力いただきまして誠にありがとうございました。